

## 本質は何か

私が教職について14年目、B中学校はまだ荒れていた時代であった。私は、当時の校長、A先生から「生徒指導主事をするように」と言われた。

生徒指導主事になると、様々な問題行動や対応に毎日追いまくられた。対応の際の校長の口癖は、「本質は何だと思うか」であった。今、何が起きているのか、何が問題なのか。起きている事実から、瞬時にこれをつかむことが正しい対応を生むという教えであった。重大ないじめが発覚した際にも、このことをたたき込まれた。「対応案を作成しなさい。」と指示されたが、書いた案は駄目出しを受けた。翌日に休日返上で手取り足取りで指導していただき、本質を踏まえた案を仕上げることができた。毎日が、こんな日々だった。

私は普段から、かなり強い姿勢で生徒に接していた。ある夜、不登校傾向の女子生徒を囲んで、カウンセリング指導員と両親が相談室で懇談していた。そのうち、父親が娘の態度に激高し、生徒が相談室を飛び出し父親が追いかけるという事態が発生した。職員室に飛び込んできた生徒は、多くの先生をすり抜けて私の背中に身を隠してきた。父親をなだめている間、生徒は私の背中にしがみついたままだった。その様子を見ていた校長は、「あんたは、普段は怖いが生徒に信頼されている。これが理想の生徒指導。まさに『鬼手仏心』、あんたは、これから生徒指導で生きていかれ。」という言葉をくださった。

校長は、背中で教える人でもあった。問題行動を繰り返す生徒には、自ら率先して直接厳しく指導された。朝の登校指導は一日も欠かさず、決して傘を差さず雨や雪には合羽を着て、横断歩道に立ち続けた。また、情に厚い人でもあった。ある男子生徒が深刻な家庭の問題で長期間欠席した。その生徒が登校することになった朝、全職員を集め、「彼は今日から登校する。勇気を振り絞って出てくる。みなさんどうか、温かく迎えてやってほしい。」と涙を流して話された。あの時の校長の顔が、涙が、瞼に焼き付いて離れない。

様々な問題に直面し、対応に迷いが出たとき、決まって「本質は何か！」というA校長の声が聞こえてくる。最後の卒業式、生徒が突然、校長を胴上げし始めた。校長と生徒の笑顔、まさに、A校長先生こそ『鬼手仏心』の人であった。